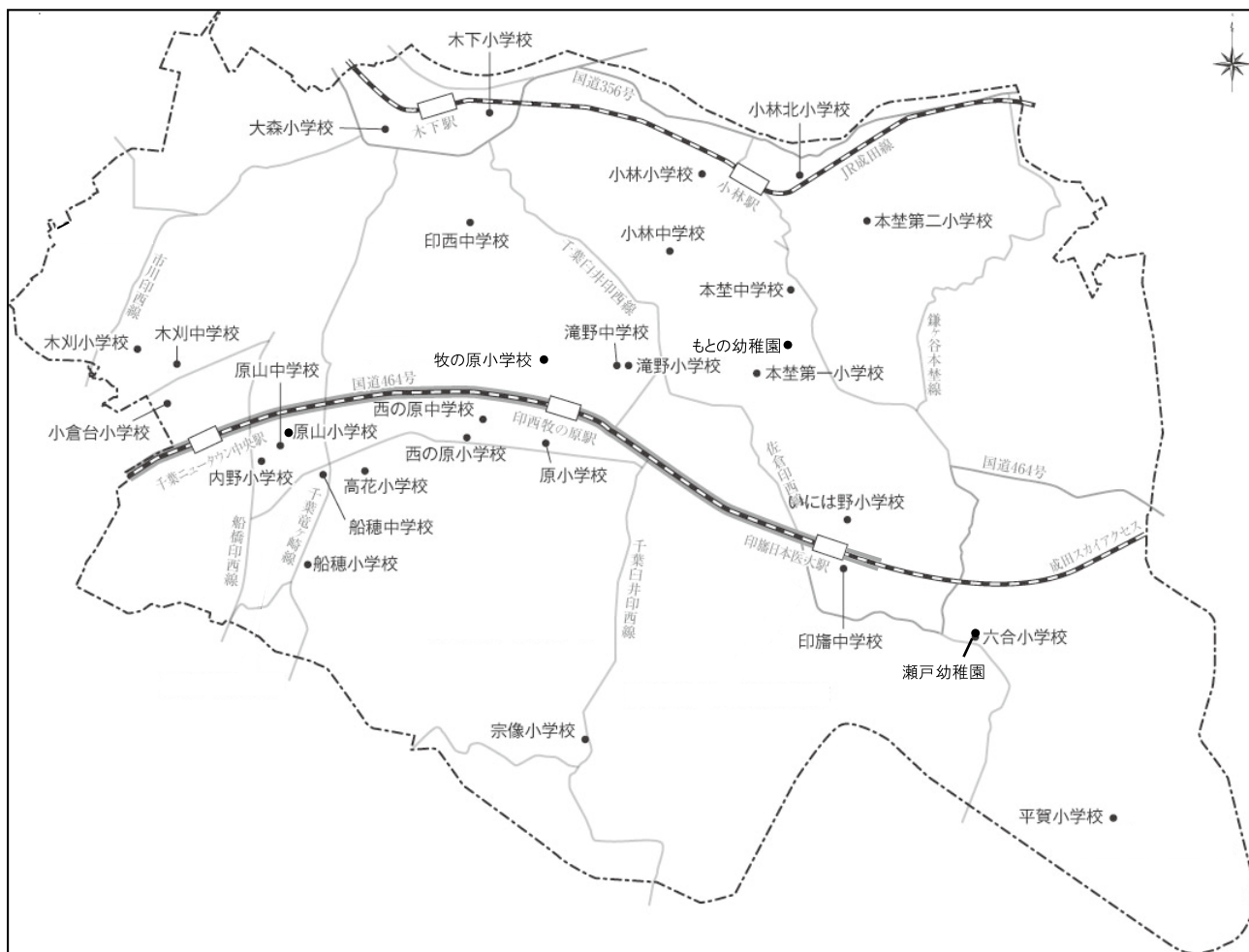


# 学校紹介



▲市立小・中学校及び幼稚園の位置

# 木下小学校



校長	齊藤 秀樹
開校	明治6年
学級数	12 (2)
児童数	329名
職員数	県費 22名 市費 7名

(平成30年5月1日現在)

これらの研究を通じて培ってきた「地域の先生」の活用を社会科だけでなく総合的な学習の時間や各教科の中で幅広く推進している。

## 学校教育目標

自らの可能性に挑戦する活力あふれる木下っ子の育成

### 1 経営方針

目指すべき学校像や子どもの姿を明確にした学校づくりをとおして、地域から愛され信頼される学校、保護者から感謝される学校、子どもや教職員が誇れる学校を創る。

そのために、活力あふれる子どもの育成、チーム木下の一員として一致協働体制がとれる教職員集団の構築、開かれた学校づくりを推進する。

### 2 本校の特色

「木下」は、かつて木材を切り出して利根川に下ろし、江戸に運んだことから由来する地名であり、江戸時代から三社詣での拠点として栄えてきた。北に利根川、筑波山、西には富士山を望むことのできる本校は、今年で開校146年目を迎える。校歌にも歌われている「丘の上なる我らの学校」は長い歴史と文化の中で、まさに地域に支えられ育まれてきた学校である。そのような地域に根ざした本校の特色の一つが、地域との連携を生かした教育活動である。

本校は、地域から学ぶ社会科学習のあり方に焦点をあて、地域素材の教材化に努めてきた。



▲6年総合「木下歴史探索」の学習  
＜木下貝層の様子を見学＞

### 3 研修の概要

#### (1) 研修テーマ

できる喜びを味わい、基礎基本を定着させる算数科学習

#### (2) 研修の目的 ＜算数科＞

算数科において、児童ができる喜びを味わい、基礎基本を定着させるためにどのような手立てが有効なのかを明らかにする。

#### (3) 目指す児童像

自分の言葉で、授業感想が書ける児童

#### (4) 各教科の習得力の向上

チャレンジタイムを活用し、国語科・算数科における基礎基本の習得を図る。

# 小林小学校



## 学校教育目標

自ら学び心豊かにたくましく生きる子ども  
の育成  
— 自立と共生ができる子ども —

## 1 経営方針

「次世代を担う人間性豊かで社会の変化に主体的に対応できる子どもの育成」をめざし、創意と活力のある学校づくりに努める。

教職員は、「子どもたちを活躍させ、よいところをほめていく」ために全力を傾ける。

地域や児童の実態を確実に把握し、保護者、地域の期待に応える教育を推進する。

## 2 本校の特色

利根の流れをのぞむ「ひこち山」に建つ本校は、緑豊かな自然に囲まれ、創立140年を越えた歴史と伝統のある学校である。

昭和38年に全国で初めて結成した少年消防隊も55年目となる。平成28年3月には、「特に優秀な少年消防クラブ」として総務大臣賞を受賞している。隊員は高学年の有志によって結成され、現在は、運動会で操法を披露したり、校内で火災予防の啓発活動を行ったりするなどして、本校の伝統をしっかりと受け継いでいる。

「笑顔いっぱいの学校」「あいさついっぱい



校長	關 智之
開校	明治7年
学級数	7(2)
児童数	172名
職員数	県費14名 市費 2名

(平成30年5月1日現在)

の学校」「思いやりいっぱいの学校」を目指し、全校一丸となって取り組んでいる。また、目指す児童像に「かしこく」「やさしく」「たくましく」をあげ、小林の自然や、地域の人々とのふれあいを大切にした体験活動や、縦割り活動を通して、思いやりの心、コミュニケーション能力の育成に努めている。さらに、地域や家庭、関係機関との連携、小林中学校区3校の小中連携・小小連携を推進しながら、地域に信頼される学校づくりに努めている。

## 3 研修の概要

### (1) 研究主題

『自分の考えを持ち、豊かに学び合う児童の育成』

児童の読みを深める国語科授業を通して

### (2) 研究の内容(本年度の取り組み)

- ①指導内容の工夫改善
- ②個に応じた指導の充実
- ③指導と評価の一体化
- ④言語活動の充実
- ⑤ 家庭・保護者との連携



▲ 少年少女消防隊

# 大森小学校



## 学校教育目標

豊かな心をもち、自ら学び、  
たくましく生きる子どもの育成  
～今日も学校へ来て自信が持てた～

### 1 経営方針

「21世紀を担う人間性豊かで、社会の変化に主体的に対応できる子どもの育成」をめざし、学校教育の充実に努めるとともに、教育のプロフェッショナルであることを自覚し、教師としての自信と誇りを持って創意工夫をして教育活動にあたる。

### 2 本校の特色

本校は今年125周年を迎える。本校の前身である発作小学校と亀成小学校は明治7年に創設され合併移転を繰り返し、明治26年7月14日に「大森小学校」として創立された。この日を記念し毎年7月14日を創立記念日として式典が行われている。

地域の学校として歩んできた本校は、平成16年に改築された。校舎は、地域の願いから昭和初期の校舎を模写し、近代風に建築されている。近代設備を活用し、ホームページ制作や音楽活動が大変盛んである。三世代同居も多く、祖父母も本校の卒業生であることから、学校への関心が高く、教育活動に大変協力的である。地域の教育資源を生かし、児童の徳・知・体のバランスのとれた教育活動を推進している。



校長	伊東 洋樹
開校	明治26年
学級数	6(2)
児童数	198名
職員数	県費 15名 市費 3名

(平成30年5月1日現在)

## 3 研修の概要

### (1) 研修のテーマ

児童の意欲を高め、  
「わかった」「できた」と実感する授業作り  
～ユニバーサルデザインの視点を生かした  
各教科の指導の工夫～

### (2) 研修の基本方針

大森小学校目指は「学習の楽しさを知り、自ら学ぶ子」「今日も学校へ来て自信が持てた」という児童像を目指している。自信を持たせるための今年度の重点は「基礎基本の徹底」である。全ての児童に、基礎基本の理解と習得を目指すために「ユニバーサルデザイン」の視点を積極的に取り入れる。

### (3) 研修の重点目標

- ①学び合う楽しさを知り、できた達成感やわかる喜びなどの学びの手応えを感じ取ることで、主体的に学習に取り組もうとする児童の育成(学びに向かう力・人間性)
  - ・安心して学ぶ児童
  - ・主体的に学ぶ児童
  - ・達成感、わかる喜びを感じる児童
- ②自分の考えをわかりやすく表現し、話し合いを通してよりよい考えに高めることができる児童の育成(思考力・判断力・表現力)
  - ・既習事項を生かして考えを表現する児童
  - ・相手の考えを理解し、質問や補足できる児童

# 船穂小学校



校長	岸 祐尚
開校	明治6年
学級数	6(1)
児童数	52名
職員数	県費 12名 市費 1名

(平成30年5月1日現在)

学習面においては毎朝15分間の読書タイム・午後15分間のチャレンジタイム(漢字力・計算力)を実施したり、家庭学習計画表を活用した家庭学習の習慣化したりすることによって基礎学力の向上に努めている。

また月2回地域の方々による読み聞かせ(おはなしホンポ)を実施している。児童は、とても楽しみにしており、地域の人々との係わりの大事な一つと成っている。

少人数の良さを生かして、教職員一人一人が児童にきめ細かな指導をし、一人一人の児童が、船穂小学校の子どもであることの喜びを感じることができる教育に取り組んでいる。

## 学校教育目標

次代を担う心豊かでたくましく生きる児童の育成  
—「明日も学校に来たい」と思う子の育成—

### 1 経営方針

- ・豊かな自然と歴史のある地域の特性、小規模校の特性を生かし、児童の実態に応じた学校づくりに努める。
- ・教職員一人一人が立場に応じた経営意識を持ち、企画運営や情報発信を中心に学校経営に参与する。
- ・校長の学校経営を支援するボランティア組織(学術経験者・教員経験者・社会教育経験者・地域人材等で構成)を立ち上げ、助言・協力を得て学校経営を支援していただく。

### 2 本校の特色

本校は、緑に囲まれた自然豊かな地域にあり、地域の方の協力による幼稚園との交流活動、「印旛沼のふるさと船穂の里山」学習、稲作体験学習、職場体験学習や学校と保護者・地域が一体となつての運動会・ふなほまつりを毎年実施している。このことは、児童の心を育む大切な行事となっている。また、保護者が中心となって毎朝の登校指導を実施しており、児童の安全面においても保護者・地域が一体となって取り組んでいる。

### 3 研修の概要

#### (1) 研修テーマ

どの子どもたちも楽しめる体育科指導のあり方  
～ユニバーサルデザイン化を目指して～

#### (2) 研修内容

##### ○取組の重点

- ・ユニバーサルデザイン化した、教材や指導法を工夫し、どの子どもも楽しめる授業を通して、基礎体力や運動能力の向上を図る。



▲全校児童

# 木刈小学校



## 学校教育目標

心豊かに、自ら学び、  
たくましく生きる子どもの育成

### 1 経営方針

- ① 「豊かな心」「健やかな体」「確かな学力」のバランスのとれた教育活動の推進。
- ② 全職員の協同体制「チーム木刈」による学校づくり
- ③ 教師は「授業で勝負」を合い言葉にした授業力の向上
- ④ 安全・安心な学校、地域に開かれた信頼される学校づくりの推進

### 2 本校の特色

本校は創立35年目を迎えた。戸建て中心の住宅地域である木刈小地区と、田畑の広がる永治小地区が昨年度統合し、ニュータウン地区と昔ながらの地区の両方の特色を兼ね備えた学校区であり、教育活動や教育内容の深まりに力を入れている。

日々の学校生活では、木刈っ子の合言葉『みそあじ』の「みんななかよし、そうじをしっかりと、あかるいあいさつ、じかんをまもる」をめあてとしている。特にそうじとあいさつができることを重点として、きれいな校舎の中に明るいあいさつができるよう指導している。

なわ跳び記録会やロードレース大会、縦割り活



校長 片岡 正行  
開校 昭和59年  
学級数 18 (2)  
児童数 604名  
職員数 県費29名  
市費 8名

(平成30年5月1日現在)

動や集会活動等を通して、運動や遊びに積極的に親しむ姿も見られる。今年度は算数科を主として、課題解決的学習をとおした思考力・表現力の育成の研究を進めていくと共に、英語推進校の市の指定を受け、外国語活動の充実を図っていく。

PTA 活動も活発で作文・標語・広報紙の部で多くの賞をいただいている。また、読み聞かせ・図書ボランティア、防犯、高齢者交流などの場面で様々な活動を地域と一体となって進めている。

### 3 研究の概要

#### (1) 研究主題

<算数科>

自分の考えを持ち、豊かに学び合う児童の育成  
～協同学習を取り入れた学び合いを通して～

#### (2) 研究仮説

仮説1：効果的な素材提示と適切な見通しをもたせることで、自分の考えをもつことができるだろう。

仮説2：協同学習の場を設定することで、わかる喜びを共に味わい、考えを深めることができるだろう。

#### (3) 研究の内容

- ①学習意欲を喚起する素材提示の工夫
  - ・実物やICT機器を活用
  - ・効果的な算数的活動
- ②思考力・表現力を高める学習過程の構成
  - ・多様な学習形態を取り入れた協同学習
  - ・ICT機器を活用した効果的な説明活動

# 内野小学校



## 学校教育目標

学びを生かし、豊かな心とたくましく生きる力を備えた子どもの育成

## 1 経営方針

『やさしい子』『かしこい子』『たくましい子』をめざす児童像としている。安全で安心な学校づくりに努めるとともに、「生きる力」の学力観、児童の実態に基づき、適切な教育課程の編成と実施に努める。人権尊重の精神のもと、児童の自主性・自律性を育て、充実した学校生活の実現に努める。これらの実現のために、意図的・計画的・継続的な教育活動の積み上げを図るとともに、地域に開かれた学校経営を推進し、保護者および地域住民の期待と信頼に応える。

## 2 本校の特色

昭和59年、千葉ニュータウン中央エリアの街開きと同時に開校し、本年度35年目を迎えた。市内のニュータウン地区では、最初に開校した小学校である。開校当初から敷地内に植樹が盛んに行われ、春には桜が見事に咲き誇り、初夏には紫陽花、秋には落葉と四季折々の変化を味わうことができる。

平成18年度には、校内研究の成果が認められ「学校保健」文部科学大臣表彰を受けている。また、ホームページにおいて平成25年度に第10回全国小学校ホームページ大賞に選ばれた。



校長	澤根 孝之
開校	昭和59年
学級数	13(4)
児童数	399名
職員数	県費 26名 市費 8名

(平成30年5月1日現在)

保護者の学校教育への支援は協力的であり、登下校の見守り活動や読み聞かせ・図書ボランティア等を実施している。

児童の読書活動推進と思考力向上のために、朝の会の前に読書の時間(月・木)とスキルタイム(火・水・金)を設けている。また、本年度よりパワーアップタイムを設け、5・6年生は外国語を1～4年生は基礎学力の定着を目指している。

## 3 研修の概要

### (1) 研修テーマ

主体的に取り組み、学び合う算数科学習をめざして

### (2) 研究仮設

表現する力を身につければ、主体的に取り組むことができ、学び合いが深まるだろう。

### (3) 研修内容

- ・学習形態の工夫をする。
- ・表現する力を育てるための手立てや場の設定を工夫する。
- ・問題把握・解決方法の確認や提示の仕方の改善を図る。
- ・個に応じた支援の方法を研鑽する。
- ・発表の仕方の工夫・改善をする。
- ・聞き方のポイントを知らせ、そこをおさえて話が聞けるようにする。
- ・発問の仕方・内容の工夫をする。
- ・児童が互いの意見を聞き合い、学び合える指導方法の工夫と改善を図る。

# 原山小学校



校長	松本 博幸
開校	平成元年
学級数	11 (2)
児童数	239名
職員数	県費 22名 市費 4名

(平成30年5月1日現在)

健やか相撲大会を実施し、体育学習計画への相撲の位置づけ、また、市の外国語活動推進研究校として等、特色ある取り組みを進めている。

知・徳・体の調和のとれた「つよい子」「やさしい子」「きりりかがやく子」を目指す児童像に掲げ、明るい挨拶が響く学校を目指している。

## 学校教育目標

夢を抱きたくましく生き抜く人づくりをめざして

### 1 経営方針

個に応じた指導の充実に努めることにより、基礎・基本の確実な定着を図るとともに、豊かな人間性とたくましい体を育む教育を推進し、それらを基に、自ら学び自ら考える力など、21世紀を拓く「生きる力」の育成を目指していく。

### 2 本校の特色

本校は、平成元年4月に開校し、30年目を迎える。千葉ニュータウン中央駅圏の南東部に位置し、高層住宅に囲まれている。学校を中心に周囲1km以内の範囲が学区である。校庭が広く、屋根付き相撲場や100m走路、アスファルトの中庭を有している。

原山小の朝は、読書タイムで始まる。さらに、保護者ボランティアや職員による読み聞かせを実施し、読書の推進を図っている。

基礎基本の確実な定着を図るために、「きりりタイム」の設定、学習コンテンツの活用、「原山っ子ノート(家庭学習帳)」の充実に努めている。また、心の教育に重点を置き、礼儀や規範意識をまとめた「心が輝く原山っ子七ヶ条」により、人間性豊かな原山っ子の育成に努めている。本校では体験を通じた学びを重視し、地域の人との交流や田植え体験等、学年に応じた様々な栽培活動を実施。

### 3 研修の概要

#### (1) 研修テーマ

自分の考えや気持ちを伝え合い、進んでコミュニケーションを図ろうとする児童の育成～評価のあり方を考えた外国語・外国語活動を通して～

#### (2) 研修内容

- ①授業実践を通して、教師の指導力向上を図り、子どもの意欲を引き出し、自分の考えや気持ちを伝え合う児童を育成する。
- ②外国語・外国語活動を中心に、指導と評価の一体化を図る研修をする。
- ③自分の考えや思いを伝える活動・場面設定・評価方法などを工夫することで、「進んでコミュニケーションを図ろうとする児童」の育成に取り組んでいく。



▲健やか相撲大会



▲外国語活動



# 小林北小学校



## 学校教育目標

心豊かで、進んで学ぶ、丈夫な子の育成

### 1 経営方針

「すべては子どもたちのために、全教職員の協働体制による学校運営」をスローガンに、

#### ◆目指す児童像◆

- 「き」気持ちのやさしい子
- 「たっ」たっぷり運動する子
- 「こ」根気よく学ぶ子                      を掲げ、  
全職員一丸となって教育活動に取り組む。

### 2 本校の特色

J R 小林駅から徒歩7分、みどり豊かで閑静な新興住宅地に立地し、平成3年度に小林小から分離開校し、本年度、創立28年目を迎える。子ども達は広い校舎、広いグラウンドでのびのびと学校生活を送っている。

また、子どもの安全・安心を守る「小林子ども守り隊」をはじめとする保護者や地域の方々による積極的な活動が展開され、教育環境を優先した地域コミュニティづくりがすすめられており、地域の中で子ども達が育まれている。

本校は、教育活動における「質の向上」を目指し、重点目標として、「あいさつ・そうじ」「学習習慣の定着」「体力向上・安全」に重点的に取り組んでいる。



校長	海老原 由美
開校	平成3年
学級数	6 (2)
児童数	184名
職員数	県費 13名 市費 3名

(平成30年5月1日現在)

#### ◆教育活動の特色◆

『笑顔かがやく北っ子合い言葉』の「あ・そ・べ」(あいさつ・返事, そうじ, 勉強)が定着しつつあり、さまざまな教育活動の場面で子どもたちと確認し合っている。

### 3 研究の概要

#### (1) 研究主題

自分の考えを持ち、学び合う児童の育成  
～学ぶ楽しさを味わうことができる  
算数科学習をめざして～

#### (2) 研究内容

- ①学習のねらいを明確にし、興味・関心のもてる算数的活動を取り入れる。
- ②『思考し、表現する力を高める実践モデルプログラム』を活用し、問題解決的な学習過程を実践する。
- ③児童個々の考えが認められる場を設定し、学ぶ楽しさを味わわせる。



▲遊・友スポーツランキング練習

# 小倉台小学校



## 学校教育目標

豊かな心を育み 自ら学び  
たくましく生きる子どもの育成

### 1 経営方針

- (1) 知徳体のバランスのとれた教育活動の推進
- (2) 「チーム小倉台」の協働体制と人材育成
- (3) 「授業で勝負」を合言葉に指導力の向上
- (4) 安全・安心で開かれた学校づくりの推進
- (5) 学校全体の業務を見直し、勤務環境を整える。

### 2 本校の特色

本校は、千葉ニュータウンの開発に伴い、平成3年に開校し28年目を迎える。千葉ニュータウン中央駅から北へ徒歩10分の位置にある。学校の周辺には、大型の商業施設や図書館等の公共施設、公園などがあり、快適な住環境の中にある。北総開発鉄道や国道464号線が整備され、成田空港や東京までの交通の利便性に富み、6年連続で住みよさランキング1位に選ばれるなど、発展の著しい地域である。近年、駅南側の宅地開発が進み、児童数が1,121名と北総地区で最大規模の学校となっている。

校舎は、サーカスのようなテントで覆われ、テント下では様々な活動ができ、子どもたちに夢を与えている。校内には、里山をコンセプトとして造られた「ふれあいの里」があり、3つの池と水田があり、池と池を結ぶ小川が流れている。植物や野鳥が観察でき、児童は自然の四季を体感しな



校長	池亀 節雄
開校	平成3年
学級数	33 (3)
児童数	1,121名
職員数	県費48名 市費 8名

(平成30年5月1日現在)

がら学習に取り組むことができる。

保護者の学校教育への関心は高く、父母と教職員の会を中心とした保護者や地域の方々により交通安全指導や図書ボランティア活動が進められている。近年、特に児童数の増加により登下校の安全確保を積極的に進めている。知・徳・体の調和のとれた教育活動を中核に、小倉台小の合言葉「そうすあじ」（掃除、歌声、整とん、あいさつ、時間）を掲げ、指導と実践の一体化を図っている。また、外国語教育タイムや読書タイム（読書貯金）などを教育課程に取り入れ、新学習指導要領の実施に向けた特色ある学校づくりを進めている。

### 3 研修の概要

#### (1) 研修テーマ

思考力・表現力を向上させ、活用力を高める指導のあり方

#### (2) 研修内容

- ①外国語教育（高学年70時間、中学年35時間）、国語科を中心とした授業研究会を実施し、仮説検証を行い、授業力の向上を目指す。
- ②ミドルリーダー研修・若年層研修の充実。
- ③年間を通したモラールアップ研修を計画的に行い、不祥事根絶に努める。



▲外国語の授業のようす

# 高花小学校



校長 石橋 博之  
 開校 平成3年  
 学級数 12 (2)  
 児童数 319名  
 職員数 県費24名  
           市費 5名

(平成30年5月1日現在)

## 学校教育目標

社会の変化に対応できるたくましい  
 子どもの育成  
 ～みんな なかよし 高花っ子～

### 1 経営方針

- ◎学校教育目標の具現化を目指し、創意あふれる教育課程を編成し、学力の保障と発達段階に応じた課題への適切な指導・支援を組織的に行う。
- ◎学校の教育活動を通じて、児童、職員が所属感を高め成長を実感できる学校づくりを行う。

### 2 本校の特色

本校は千葉ニュータウン中央駅の南東に位置し、周囲には団地や住宅地が広がっている。敷地内には緑が多く、樹木や花に囲まれた中で、子ども達はのびのびと学校生活を送っている。

笑顔でのあいさつ運動、子どもを主体とした縦割り活動を行い、思いやりのある「やさしい子」の育成に努めている。

また、基礎・基本の定着を図るとともに、特別な支援を必要とする児童に対しては、全体で共通理解を図りながら、一人一人に合わせた指導をしている。

### 3 研修の概要

#### (1) 研修テーマ

読み取る力を育む国語学習のあり方

#### (2) 研修内容

- ①導入や学習過程を工夫し、児童が進んで学習に取り組ませることで、読み取る力を育てる。
- ②文章を読んで思いや考えを友達と共有する場を設定することで読みとる力を育てる。



▲音楽フェスティバル

# 西の原小学校



## 学校教育目標

強い体・豊かな心・生きる知恵を学び  
とる活気に満ちた子どもの育成

## 1 経営方針

- 知徳体のバランスがよく，子ども・保護者・地域から信頼される教育活動の展開
- 常に前向きに改善を進め，子ども・保護者・地域から信頼される教育活動の展開

## 2 本校の特色

本校は，千葉ニュータウンの第19住区の小学校として，平成6年に創設された。学区は，印西市西の原1丁目，2丁目，3丁目，4丁目，草深の一部から成り，通学に適した範囲にある。近くに北総開発鉄道の印西牧の原駅があり，中高層マンションや一戸建て住宅地が多いが，自然環境にも恵まれている。最近新たに4丁目（学校に隣接した地区）に宅地造成が進み，児童数も少しずつ増えてきている。保護者は東京方面へ通勤する会社員が大半である。全体的に若い世代の保護者が多い。教育に関する関心は高く，学校行事等にも積極的に参観・協力する保護者が多い。平成22年度に保護者と教職員の会の組織を改変して「西の原っ子応援団」として積極的に活動を行っている。



校長 久門 恵子  
開校 平成6年  
学級数 14（2）  
児童数 442名  
職員数 県費 23名  
市費 6名

（平成30年5月1日現在）

平成30年度は，次の重点6項目を設定し，学校づくりを進めている。①「生きる力」を育むための創意ある教育 ②全員参加型の学校運営 ③学び高め合う研修の充実 ④安心・安全な教育環境 ⑤地域に根ざした学校作り ⑥教育活動充実のための働き方改革

## 3 研修の概要

### （1）研究主題

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた  
国語科学習指導の創造

～「読むこと」を中心にして～

### （2）研究仮説

- ①付けたい力を明確にし見通しを持てる言語活動を工夫すれば，主体的に学び確かな言葉の力を育むことができるだろう。
- ②単元を通して対話的な学びの場を工夫すれば，豊かな言葉の力を育むことができるだろう。

### （3）研究内容

- ・国語科授業研究会及び日々の授業実践を通し授業改善に取り組む。
- ・読書・言語環境・言葉スキルアップの観点から日常的に言葉に触れ言葉に親しむ場の設定に全校で取り組む。



▲ 3年生算数：発表 ▲ 1年生算数市教研

# 原小学校



## 学校教育目標

人間性豊かな、考え行動できる心身ともに  
たくましい子どもの育成  
—自らの可能性に挑戦する活力ある原っ子—

### 1 経営方針

めざすべき学校像や子どもの姿を明確にした学校づくりを通して、子どもの笑顔が輝く学校、保護者や地域から愛され信頼される学校、子どもや教職員が誇りに思える学校を創りたい。そのために、活力あふれる子どもの育成、チーム原の一員として一致協働体制がとれる教職員集団の構築、開かれた学校づくりを推進する。

### 2 本校の特色

本校は、本年で開校23年目を迎える。街並みの景観にマッチした近未来的な校舎で、随所に吹き抜けのある校舎内は屋根からの採光にも工夫がなされており、明るく開放的な雰囲気が漂っている。また、各教室に隣接したオープンスペースは、多様な学習や活動に適した空間となっている。

学区は原1丁目から4丁目、平成15年度より草深小学校の統合により学区となった草深の一部からなる。また、21年度より東の原地区が学区に入り、児童が通学を始めている。

27年度に牧の原小学校の開校に伴う学区変更で一時的に児童数は減少したが、東の原地区、



校長	小林 すみ子
開校	平成8年
学級数	26 (2)
児童数	853名
職員数	県費 38名 市費 9名

(平成30年5月1日現在)

草深地区の開発は依然進み、本年度は853名の在籍を抱える、市内でも有数の大規模校となっている。

近隣には大型商業施設やマンション群など近代的な街並みと、田畑が広がり、ザリガニやオタマジャクシが泳ぐ水路、鳥たちが飛来する水田など、緑豊かな自然が多く残る地域がバランス良く融合しており、その地域の特色を学習に生かすことで、児童は双方の良い面を享受することができている。

PTA組織は平成10年度より「保護者と教職員の会」として発足し現在に至っている。保護者は教育熱心であり、学校行事にも積極的に参加をしていただいている。今後も、地域に愛される学校を目指して職員一同努力していきたい。

### 3 研修の概要

(1) 研修テーマ 平成29年度より

自己を見つめ、心豊かに、ともにより  
よく生きる子どもの育成  
～問題解決的な学習を通して～

(2) 研修計画

- 1学期・・・第1回, 第2回校内授業研修会
- 2学期・・・第3回, 第4回校内授業研修会  
印教研道徳科公開研修会
- 3学期・・・研修のまとめ作成

# 六合小学校



## 学校教育目標

やさしく かしこく たくましい子どもの育成

### 1 経営方針

#### 「子どもが主役の夢を育む学校の創造」

○徳・知・体の調和の取れた人間性豊かな児童の育成をめざす。

○相互協力を大切にし、全員参加の経営に努める。

○地域に根ざした開かれた学校づくりをめざす。

### 2 本校の特色

本校の名称ともなっている「六合」は、瀬戸・山田・吉高・萩原・松虫・平賀の6地区の合併に由来している。創立以来、六合村立、印旛村立、印西市立と改称はしているが、146年の伝統を誇る。敷地内には、樹齢の古い木々が茂り、地域の自然の豊かさを物語っている。印旛沼方面から見ると緑の広がりの中にオレンジ色のとんがり帽子の校舎が垣間見える。昭和54年に改修された鉄筋の校舎は、当時としてはモダンなものであった。この頃の児童は、今では保護者として学校に協力していただいている。まさに、何世代にわたって地域に支えられ育まれてきた学校であるといえる。



校長	増田 賢一
開校	明治6年
学級数	6 (2)
児童数	94名
職員数	県費 15名 市費 3名

(平成30年5月1日現在)

また、校庭には芝生が広がり、全天候型の100m走路をもち、児童の体力向上に一役かっている。

さらに、青少年赤十字(JRC)加盟校として、「明るいあいさつのできる子」「考え行動することのできる子」の育成をめざし、学校全体で取り組んでいる。

### 3 研修の概要

#### (1) 研修主題

生きてはたらく言葉の力を身に付けた児童の育成  
～言語活動の充実を通して～

#### (2) 研究目標

言語活動の充実を通して、生きてはたらく国語の力を付ける手立てを明らかにする。

#### (3) 研究仮説

①児童が目的意識、相手意識をもって取り組むことができるような単元構成と言語活動を工夫すれば、主体的に学び、自分の考えや思いをもつことができるだろう。

②自分の考えの根拠となる言葉や記述に着目させれば、確かな読みの力が付くだろう。

③読みを深めるための意見交流をすれば、豊かな読みの力が付くだろう。



▲授業における言語活動の様子

# 宗像小学校



校長 増田 洋子  
 開校 明治6年  
 学級数 4 (2)  
 児童数 21名  
 職員数 県費 11名  
           市費 2名

(平成30年5月1日現在)

## 学校教育目標

たくましく 心豊かな 児童の育成

### 1 経営方針

<経営の基盤>

- 子どもとともに  
～子どものよさの発見と伸長
- 地域とともに  
～学校を地域に 地域を学校に
- ともに理解, ともに実践  
～共通理解 共通行動

<経営の重点>

- 豊かな情操を育む
- 確かな学力をつける
- たくましい心と体を育てる

### 2 本校の特色

本校学区は印西市の南部に位置し、東は六合小・いには野小学区、西は八千代市、南は印旛沼を経て佐倉市、北は印西牧の原地区に接している。南側と西側は、湿地帯で水田が開けている農業地域であり、子ども・両親・祖父母の三世同居家庭が多い。専業農家はほとんどなく、仕事の傍ら農業を営んでいる。

保護者を含めた、地域在住の方々の多くは本校の卒業生であり、「地元の学校」という愛校心が強く、学校教育に対する協力を惜しまない。PTAによる環境整備や地域全体の資源回収などの活動によって学校は支えられている。

児童数は少ないが、明るく素直な子どもたちであり、学年を越えて仲よく遊ぶ姿が見られる。

小規模校の利点を生かし、学習・生活両面において個別の課題に応じたきめ細かな指導や、それぞれの子どもが活躍する場面を工夫し、良さを伸ばす指導に努めている。

### 3 研修の概要

#### (1) 研修テーマ

自分の思いや考えを伝え、他者とかかわり  
 よりよく生きようとする児童の育成  
 ～異学年・保護者・地域の人とかかわる「宗像ならでは」の道德教育の実践を通して～

#### (2) 研修内容

- ① 道德的価値に迫る手立てを取り入れた話し合う場を設け、互いの思いや考えを交流し合う中で道德性の育成を図る。
- ② 異学年交流や保護者・地域の方との道德授業を組織的・計画的に行うことで、物事を多面的・多角的に考えることができ、他者と共によりよく生きようとする児童を育てる。



▲平成29年度 運動会「宗像ソーラン」

# 平賀小学校



校長	逆井 俊彦
開校	平成2年
学級数	6 (2)
児童数	110名
職員数	県費 13名 市費 4名

(平成30年5月1日現在)

## 学校教育目標

21世紀を生き抜く  
自立的、協働的に行動できる人を育てる

### 1 経営方針

- (1) すべては子ども達のために取り組み、「生きる力」を育む。
- (2) 『良い生活習慣』を身につける。
- (3) 『良い学習習慣』を身につける。
- (4) 教職員は、質の高い指導力を備え、何よりも子どもに信頼される人間であるよう、研究と修養に励む。
- (5) 教育活動が、計画的、継続的、組織的に推進され、信頼される魅力ある学校をつくる。

### 2 本校の特色

本校は、印旛地区東部にあたり印西市の最も東部に位置している。農村部である平賀地区と新興住宅地である平賀学園台からなる。

県立印旛特別支援学校と隣接しており、両校の間の「交流門」を通して、昼休みや授業交流など年間を通した地に足をつけた交流活動を行っている。また、順天堂大学も学区内にあり、「1年生歓迎遠足」として場所を提供していただいている。

児童数は、平賀地区児童が約27%、平賀学園台地区児童が約73%で、減少傾向にある。児童は、礼儀正しく、縦割り班活動・異校種交流を通

して、やさしい心と行動がともなってきた。保護者は教育への関心と熱意が強く、また学校への理解と協力を惜しまない。

### 3 研修の概要

#### (1) 研究主題

主体的・協働的な学習を通して  
思考力・表現力を伸ばしていく授業のあり方

#### (2) 研修内容

- 研究の視点
- 主体的な思考の視点
    - 〈多面的思考を促すアプローチの仕方〉
      - ・導入の工夫
      - ・教材、教具の工夫
      - ・授業の展開や発問の工夫
    - 〈批判的思考を促すアプローチの仕方〉
      - ・聞く力を育てるための観点の明確化
      - ・既習事項を確認し、比較する場の設定
  - 表現活動の視点（書く、伝える活動）
    - ・数学的活動を取り入れた授業
    - ・話し方や考え方の型の提示
    - ・表現活動を活発にする教具の活用
      - (発表用のホワイトボードや書画カメラなど)
    - ・ペアやグループなど小グループでの言語活動の場の設定



# いには野小学校



校長 吉野 高明  
 開校 平成12年  
 学級数 16 (3)  
 児童数 476名  
 職員数 県費 27名  
           市費 9名

(平成30年5月1日現在)

## 学校教育目標

『たくましく 豊かな心をもち  
 最後まで学び通す子どもの育成』

### 1 経営方針（めざす学校像）

- ① い いつも元気いっぱい  
 全力でがんばる子どもがいる学校
- ② に こやかで友だちを大切にし  
 いじめのない学校
- ③ は 「はい」と進んで発表  
 学習が大好きになる学校
- ④ の のびる力  
 その子どもの良さを認める学校

### 2 本校の特色

本校は、千葉ニュータウンの一番東側に宅地造成された地区に開校し、今年度19年目を迎える。一戸建てやマンションが林立する住宅地と、緑豊かな自然環境を学区に持ち、学校・駅・公園・道路等にバリアフリー化が図られた高齢者などに優しい環境にある。

校舎は、オープンスペースを生かし、多様な教育活動に対応できるような構造となっている。また、校内には印旛沼に生息する水生植物や生物を擁するビオトープが整備され、児童は自然の生態系を体感しながら学習に臨むことができる。

児童の安全・安心を守るための登下校時の安全指導や、教育環境の向上を目指した花植えや草刈

りなどの環境整備、図書室の整備や読み聞かせなど、地域や保護者の方々からは大きな支援をいただいている。これらを生かし、

- ① 学力の向上
- ② 情操教育の推進
- ③ 体力の向上
- ④ 特別支援教育の推進
- ⑤ 積極的な生徒指導の推進
- ⑥ 地域社会との共生

に特に力を入れて取り組んでいく



▲オリパラ体験授業



▲明日会環境ボランティア

### 3 研修の概要

#### (1) 研修テーマ

『豊かな心を育む道德教育のあり方』

#### (2) 研修内容

児童が、ねらいとする道徳的価値を自分の課題として受け止め、豊かに感じ、いきいきと表現して、自他を大切にし、よりよく生きようとする意欲を育てる。

# 本埜第一小学校



## 学校教育目標

自ら考え行動できる  
心豊かでたくましい子どもの育成

### 1 経営方針

- 小規模校のメリットを生かし、豊かな教育環境づくりを推進する。
- 児童一人一人の教育的ニーズに対応した特別支援教育を推進する。
- 児童が相互に学び合い、高め合えるような授業を積み重ね、学力向上を図る。
- 子ども達が、自ら考え、行動できるよう「心の教育」の充実に努める。
- 本校の伝統や文化、地域の教育力などを大切にし、安全・安心な学校づくりに努める。

### 2 本校の特色

本校は印西市の北東部に位置する自然豊かな地域にあり、古くから住んでいる住民がほとんどである。学区は広く、登下校にはスクールバスも利用している。

今年で創立130年目を迎えた本校の校庭には、樹齢100年をこえる大桜がある。歴史と伝統ある学校を大事にしようとする気風が強く、地域・保護者は、もといち祭、



校長	後藤 譲
開校	明治21年
学級数	5 (1)
児童数	53名
職員数	県費 10名 市費 4名

(平成30年5月1日現在)

もといちキャンプ等の学校行事や交流活動、美化活動についても協力を惜しまない。

地区ごとの結びつきが強く、PTA活動にも協力的である。

小規模校のメリットを最大限に生かし、全校体制で児童一人一人の教育的ニーズに応じた教育を推進している。また、体験と交流の充実を通して学ぶ機会を大事にするとともに、全校縦割り活動や本埜第二小との交流を通して、多様な集団活動の充実に努めている。



▲PTA主催の校内キャンプ



▲もといち祭

### 3 研修の概要

#### (1) 研修テーマ

自ら考え、表現できる子どもの育成  
～数学的表現の指導を通して～

#### (2) 研修内容 (算数科)

数学的な表現を意識し、自分の考えを表現したり説明したりする活動を計画的に取り入れることで表現力を育てる。

# 本埜第二小学校



## 学校教育目標

自ら考え 自ら学び 豊かな心をもって 皆で力を合わせてたくましく生きる 児童の育成

### 1 経営方針

- (1) 小規模校の良さを活かし、地域に根ざし、開かれた学校づくりに努める。
- (2) 本埜の歴史や自然を活かした教育課程を編成し、個に応じた教育活動を推進する。
- (3) 次期学習指導要領の具現化と教育課程の着実な実現を図り、教育活動を充実させ、相互の関連を工夫する。
- (4) 基本的な生活習慣を身につけ、他者を思いやる、豊かな心をもつ児童の育成に努める
- (5) 児童と教職員の健康増進に努める。(特にう歯治癒率の向上)
- (6) よりよい人間関係の中で、児童一人ひとりの自己実現と楽しい学校づくりを推進する。
- (7) 教育研究を充実させ、楽しくわかる授業づくりを推進し、学力向上を図る。
- (8) 安全、安心で、児童が生き生きと活動できる、潤いのある教育環境の充実に努める。
- (9) 信頼される学校づくりをめざし、家庭・地域と学校の連携を推進する。

### 2 本校の特色

本校は印西市の東部、旧本埜村の東半分を学



校長	陣内 孝浩
開校	明治6年
学級数	4(2)
児童数	38名
職員数	県費 10名 市費 2名

(平成30年5月1日現在)

区としている。本地域は、利根川・印旛沼の2つの水系には生まれ、江戸時代の寛永年間から開墾が始まった。以来洪水氾濫と戦いながら、優良な水田地域となった。学区には平成4年から白鳥が飛来し、環境保護に関する学習を推進している。

児童の家庭環境は昔からの家が多く、地域の繋がりが強い。ほとんどが兼業農家であり、祖父母との同居も多い。学校に対しては、愛着のある母校のために協力を惜しまない。児童は概して落ち着きがあり素直である。また清掃などの勤労作業に真剣に取り組み、大変仲がよい。

### 3 研修の概要

#### (1) 研修テーマ

意欲的に皆で問題解決学習に取り組む児童の育成  
～目的意識を明確にした活動を通して～

#### (2) 研究の手立て

- ① 見つける、比べるなど、多様な学習活動の中から気付かせ皆で解決する意欲を引き出す。
- ② 児童の活動や体験したことを言葉や絵など多様な手法で表す表現活動の充実により、体的に学習に取り組ませる。
- ③ 学校の自然環境を利用し、不思議さや面白さを実感する活動で探求的な学びを促進する。
- ④ どの子にも「わかる」「できる」を促す支援(ユニバーサルデザイン)を取り入れた授業を展開することで、意欲的・主体的な学びを引き出す。

# 滝野小学校



## 学校教育目標

夢を抱き、  
心豊かに、自ら学び、  
たくましく生きる児童の育成  
やさしく かしこく たくましく

## 1 経営方針

チーム滝野として全職員の英知と行動力の結集により、児童の創造力を引き出し、夢を育む教育活動の実践

- (1) 県教委、市教委の指針、施策等に基づき、知徳・体の調和のとれた人間性豊かな児童の育成
- (2) 全職員が滝野小学校の職員であるという自覚と責任のもとに、児童一人一人の個性を生かし、愛情と情熱を持ってきめ細やかな教育活動の日々の実践
- (3) 教育課程の編成、教育活動の諸条件を整備し、基礎的・基本的な知識・技能の定着を図り、確かな学力、生きる力を育む教育活動の取組
- (4) 教師の資質の向上と専門性を高める研修を推進し、施設・設備・教材等の活用を工夫し、一人一人の児童に即したわかる授業の実践
- (5) 学校・家庭・地域がそれぞれの役割と責任を果たし、共に信頼・協力し合い一人一人の子どもを大切にしながら、開かれた学校作りを推進



校長	土岐 成生
開校	平成9年
学級数	12 (2)
児童数	386名
職員数	県費20名 市費 8名

(平成30年5月1日現在)

## 2 本校の特色

本校は、印西市本埜地区の西部に位置し、平成9年4月に千葉ニュータウン計画23住区に新設された。滝野中学校と建物が一体化しており、教室はオープンスペース、一部特別教室が共有施設になっている。滝野の街の中央に位置し、街のシンボリック存在になっている。生活の利便性と緑豊かな環境を求めて、関東近県から転居してきた家庭が多い。保護者の多くは会社員で、核家族化が進んでいる地域であり、教育に対する関心は極めて高い。

平成22年3月、1市2村合併のため、印西市立滝野小学校に学校名を変更した。平成28年度に、創立20周年を迎え、滝野中学校とともに記念行事を行った。本年度は、さらに中学校や地域との連携を深め、新たな滝野小をめざしていく。

## 3 研究の概要

### (1) 研究主題

自分の考えをもち、学び合いながら  
読み深める国語科指導のあり方  
～国語科「読む」活動を通して～

### (2) 研究の目標

児童が意欲を持って学ぶための学習指導方法について研究する。

### (3) 具体的な手立て

- ①国語科の授業での工夫 ○指導過程の工夫
- ②語彙力を高める工夫 ○読書活動の充実

(4) その他 印西市外国語活動の研究指定校として3年のまとめを図る。

# 牧の原小学校



校長 佐久間庸夫  
 開校 平成27年  
 学級数 10(2)  
 児童数 290名  
 職員数 県費17名  
           市費 5名

(平成30年5月1日現在)

## 学校教育目標

心豊かで、心身ともにたくましい子どもの育成  
 — 愛・希望・勇気を育む —

### 1 経営方針

「新しい時代を担う人間性豊かで、社会の変化に主体的に対応できる心身ともにたくましい子どもの育成」をめざし、学校教育の充実に努める。

#### (1) めざす子ども像

- やさしく思いやりのある子
- 進んで学び、よく考える子
- 体をきたえ、元気な子

#### (2) めざす教師像

子どもとともに生きる豊かな人間性と社会性のある教師

#### (3) めざす学校像

一人一人の力を最大限に伸ばし、子どもにとって楽しい学校

### 2 本校の特色

本校は北総線印西牧の原駅の北西部に位置し、牧の原地区・牧の台地区・草深地区の一部を指定学区、宗甫・別所新田・別所地区を選択学区としている。もともとは雑木林の山や湿地からなる地形であったが、千葉ニュータウン21住区の開発に伴い、原小学校の分離校として平成27年4月に開校した。駅

周辺及び国道464号線沿道には商業施設が建ち並び、自然との調和をめざした宅地開発により、人口増が見込まれる地域である。

保護者の教育に対する関心は高く、学校教育活動に対し大変協力的で、ともに学校を創ろうという高い意識が感じられる。

一人一人に対する理解ときめ細やかな指導により、基礎・基本的事項の確実な習得を図っている。また、清掃活動や縦割り遊びなどを中心に異学年での交流を活発に行うことで、心豊かな児童の育成に努めている。

### 3 研修の概要

#### (1) 研修テーマ

算数科「自分の考えをもち、進んで表現する児童の育成」

#### (2) 研修内容

- ①既習事項の活用
- ②課題の適切な把握
- ③伝え合う場の工夫
- ④工夫して発表させる
- ⑤ノート指導をする。



▲低学年算数科学習風景